

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○「書くこと」についての結果が全国・県平均よりも高く、条件に合わせて文章を書くことができる児童が多い。 ●誤答の内容から、選択肢の文章を最後まで読んでいない、または理解できていない児童が多い。 ●選択肢の内容理解、語句の言い換え、関連することば(例:具体的→例えば)を見つけることが難しい。	・問いの文をしっかり読むという習慣をつける。 ・時間を効率的に使い、間違いを少なくするため、問いの文を読んでから問題文を読むという流れを定着できるようにする。
算数	○無回答はなく、最後まで粘り強く問題に取り組むことができる。 ○図形領域は県で約6.5ポイント、全国を約4ポイント上回っている。 ●面積を求める計算が間違っていることが多い。 ●文章から必要な情報を読み取ることを苦手としている児童が多い。	・実生活に結び付くような問題に取り組む際に、知識として活かせるような取組を行う。 ・基礎・基本の定着を図るために、学期末に学習した内容について復習する機会を設けたり、長期休業中の課題としてプリントを課題として配付したりする。
理科	○問題形式が記述式のものや思考・判断・表現の観点の正答率が県、全国平均を上回っていることから、学習経験から自分の考えを表現することができる。 ●「生命」領域の正答率が低い。 ●基礎・基本の定着が不十分。	・基礎・基本の定着を図るために、ドリル学習などで繰り返し学習した内容を復習する。 ・実験器具(顕微鏡等)を扱う機会を増やし、扱いに慣れる。

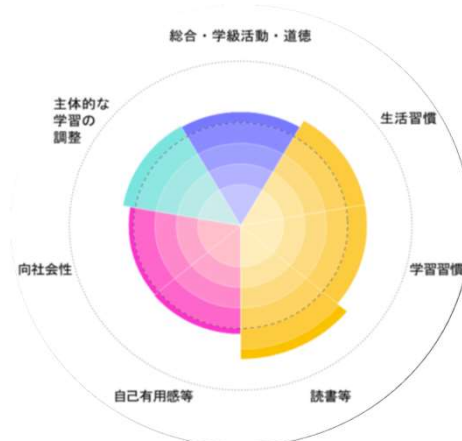
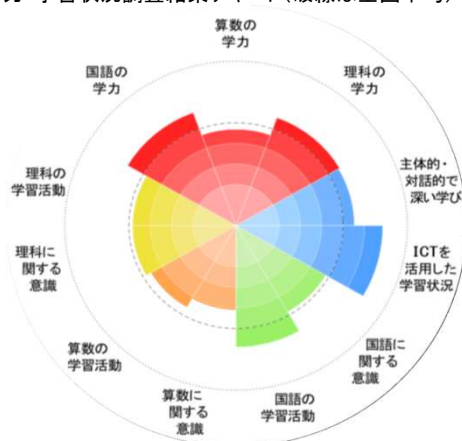
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○地域の協力もあり、地域の方(幼稚園児も含む)と触れ合ったり、地域で活動したりすることを取り入れたことで、人の役に立ちたいと思ったり、自分の良さに気付いたりすることができた。 ○毎日1時間程度の内容を家庭学習で行うようにしたため、家庭学習の習慣が身につくにつつある。 ●読書が好きと答える児童の割合が県・全国平均を下回る。	・学校内でも図書館担当、図書館司書を中心として全校で読書活動に取り組んでいるが、学年の児童の実態に応じて、担任が本を紹介する活動を行う。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・月に2回、学年ごとに短作文を書く活動を行っているが、それをさらに充実させる。(教科書内に登場する語句・文法の使い方や意味を文章を書くことを通して学ぶことができる内容を加える。) ・算数で学習したことを理科、社会、家庭科など他教科でも活かす取組を行う。
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

15 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

